

「高度経済成長」期の高島亀太郎（下）

——政治面について——

川 東 蛸 弘

目 次

はじめに	
第1章	1955年
第2章	1956年
第3章	1957年
第4章	1958年
第5章	1959年
第6章	1960年

は じ め に

前稿¹⁾で、1950年代後半（1955～60年）の高島亀太郎の家業について見ました。世の経済は「神武景気」（1954年12月～57年6月まで31カ月）、「岩戸景気」（58年7月～61年12月まで42カ月）の真っ最中でしたが、高島の木工会社は高度成長の影響はほとんど無く、むしろ不況に喘ぎ、赤字が続き、60年8月には木工会社を廃業し、少人数を残し、洋家具工場として出発していました。

さて、本稿では、1950年代の後半（1955～60年）の亀太郎の政治活動面について見ることにします。中央の政界は55年体制の発足です。地方でも保守合同がなされ、亀太郎は宇和島で自民党の顧問に就任し、政治活動に関与し続けています。

1) 拙稿「高度経済成長期の高島亀太郎（上）—家業について—」（「松山大学論集」第13巻4号，2001年10月）。

第1章 1955年

1955年(昭和30), 亀太郎72歳の年です。本年は各種選挙が続きました。1月に愛媛県知事選, 2月に鳩山民主党内閣下の総選挙, 4月に県議選・市長選・市議選等。特に宇和島市長選挙では亀太郎の甥の中村純一(自由党)が亀太郎の身代わりで立候補しましたので, 必死に応援しています。また, 年末には中央で左右社会党の合同, 自由党, 民主党の保守合同があり, 55年体制が発足しています。

以下, 本年の亀太郎の政治活動について見てみましょう。

(1) 民主党愛媛支部結成(1月7日), 知事選(1月30日)関係

本年(1955)1月7日, 前年末の日本民主党の結成(鳩山一郎総裁)に伴う民主党愛媛県支部結成大会が松山市の県民館で開かれています。大会には中央から総務会長の三木武吉, 郵政大臣武知勇記等が来県, 砂田重政, 佐々木長治, 今松治郎(いずれも元自由党), 菅太郎, 毛利松平(元改進黨)らの政界要人及び有志約4,000名が出席して, 民主党支部を結成しました。支部長は武知勇記(衆議院議員), 幹事長に八木徹雄(県議), 政調会長に瀬野良(県議), 総務会長に毛山森太郎が就任し, 顧問に砂田, 佐々木, 今松, 村瀬宣親, 菅, 毛利が就任しています。武知も砂田も今松も, いずれも公職追放解除組(元自由党)であり, 彼らが鳩山民主党に走っていました²⁾また, 昨年知事選出馬を断念させられた自由党の佐々木も, 民主党に走っています。

したがって, 県内保守党は自由党(越智茂支部長, 白石春樹幹事長)と民主党の保守2党体制となりました。亀太郎はこの民主党には参加しておらず, 自由党のままです。

さて, 昨年末久松定武知事の辞表に伴い, 知事選が繰り上げられました。本

2) 今井琉滴男『愛媛県政の二十年』119頁。

年1月4日告示で、30日が投票です。愛媛の自由党と民主党の両保守党はともに現職の久松定武を担ぎました（久松は1期目は革新から出ましたが、1期目の終わりに革新から保守に転換）。他方、社会党は前副知事の羽藤栄市を擁立し（共産党も政策協定をかわし支持）、保革一騎討ちとなりました。

日記には、知事選に関する記事はなく、応援活動はしていませんが、当然久松支持です。1月30日が投票日です。当日の日記に「十時和霊校の投票所へ行って、知事選挙をした。……夜、知事選挙開票の結果、前知事久松定武氏の当選が十時頃迄に確実となった」と記しています。得票は久松が39万3,225票、羽藤が23万9,557票で、15万余票もの大差で久松が再選され、革新側は惨敗でした³⁾。

(2) 衆議院選挙（2月27日）

鳩山民主党政権下(1954年12月10日～)、前年の首班指名時の社会党との約束のため（早期解散を行う）、本年は衆議院解散が必至です。

1月10日に、衆議院に再度立候補する自由党の山本友一（第3区）が亀太郎を訪問しています。亀太郎に支援を求める為と思われます。「山本友一君が田中又雄君を伴ふて来訪、同君は近く議会解散を待つて再び立候補に内定の由である」。

1月24日、予定通り衆議院の解散がなされました。「議会解散のニュースを聴く」。

1月31日に、山本友一が亀太郎を再度訪問しています。「午後二時山本友一君東京より帰郷。衆議院選立候補に就き、訪問した」。

さて、2月1日に第27回衆議院選挙が公示され、27日が投票です。少数与党の鳩山民主党が第1党を狙うための総選挙でした⁴⁾。この総選挙の争点は、保革

3) 『愛媛県議会史 第5巻』1124頁、今井『前掲書』118頁。

4) 解散当時の党派所属議員は、自由党180、日本民主党124、左派社会党74、右派社会党61、その他17（『議会制度百年史』644頁）。

対立、自由党と民主党との保守決の外に、鳩山内閣の掲げる「憲法改正—自衛軍創設」と「中ソ両国との国交調整」が焦点でした。

愛媛県の1区（定員3名）では、民主党が2人（現職の武知勇記と元代議士の菅太郎）、自由党が1人（現職の関谷勝利）、右派社会党が1人（現職の中村時雄）、共産党が1人（宇都宮周策）立候補しました。2区（定員3名）では、民主党が2人（現職の村瀬宣親と元代議士の砂田重政）、自由党が1人（現職の越智茂）、左派社会党が1人（現職の安平鹿一）、共産党が1人（清水省三）、無所属から1人（元右派社会党の代議士林田哲雄）立候補しています。亀太郎の属する3区（定員3名）では、民主党が3人（現職の高橋英吉、元代議士の今松治郎、新人の毛利松平）、自由党が1人（現職の山本友一）、左派社会党が1人（現職の井谷正吉）、無所属から1人（新人の山田庄太郎）立候補しています。

このように、鳩山民主党は積極的攻勢的に候補を立てています。他方、自由党と社会党は各区とも1名に絞りこみ、防戦です。また、民主党のうち、1区の武知、2区の砂田、3区の今松、高橋はいずれも前は自由党で、今回は民主党に鞍替えしての立候補です。民主党は乱立気味です。

亀太郎は鳩山の民主党には走らず、あくまで、主流派の自由党です。3区の自由党の現職山本友一を支援しています。以下、応援関係の記事を掲げておきます。

2月12日「山本友一君選挙事務所へ行って三時帰宅。……五時より更に外出して中村君と共に本日山本応援に来宇の元大蔵大臣池田勇人氏を訪ひ、又六時から東高等学校講堂に於ける演説会場で元衆議院議長林讓治君に会ふた。演説は盛会で、九時まで両氏等の演説会を聴いて帰宅した」。

2月13日「午前八時出発。池田、林の閣僚、中村君、山本君と共に自動車二台に分乗して岩松へ行き、九時から津島町小学校に於ける山本君個人演説会に臨んだ。池田、山本の両氏は岩松より宇和島へ引返し、林讓治君、中村君、予の三人は同乗して南宇和郡へ赴いた。正午着。城辺の事務所で休憩の上、午後一時から平城の南宇和高等学校で開催の山本派演説会に出席した。浅田県議、

予、林、中村の順で演説し、林君は其儘自分の選挙区宿毛市へ出発し、予と中村とは五時城辺を立って七時宇和島に帰着した。同乗の中山市会副議長とトキワで夕食を共にして八時半帰宅した」。

2月23日「山本君の選挙事務所へ行き、夜七時半から浄念寺、八時半から泰平寺で人々と共に同候補の応援演説をした」。

2月25日「山本事務所へ行き、午后在宅、夜、大浦会堂と浄満寺で山本候補応援の演説をした」等々。

2月27日が総選挙の投票日で、即日開票されました。1区では、中村(右派社会)、菅(民主)、関谷(自由)が当選し、現職の大臣武知(民主)が落選です。関谷は造船疑獄連座で苦戦が予想されたにもかかわらず、武知を蹴落としての当選です。2区では砂田(民主)、安平(左派社会)、越智(自由)が当選し、現職の村瀬(民主)が落選です。砂田が返り咲きました。3区では今松(民主)、山本(自由)、井谷(左派社会)が当選し、現職の高橋(民主)、毛利(民主)が落選です。今松も返り咲きです。

亀太郎は当日の日記に「十一時和霊小学校へ行って、衆議院議員選挙の投票をした。午後中村へ行って、夕方迄に帰宅。八時から夜半二時までラヂオの開票結果の報道を聴いた。当第三区選挙区は今松、山本、井谷の三君当選し、次点毛利、次で高橋、山田であった。第一区は関谷君等当選して、武知君落選し、第二区は砂田君最高点。全国的には民主党の進出著しかった」と記しています。

このように、愛媛の選挙結果は、民主3、自由3、社会3(左派2、右派1)で、引き分けです。全国的には、民主党185名、自由党112名、左派社会89名、右派社会67名、労働者農民党4名、日本共産党2名、諸派・無所属8名で、鳩山民主党の大躍進、自由党の後退・激減、左右両社会党の前進が特徴でした⁵⁾。

しかし、鳩山民主党は躍進したものの過半数に遠く及ばず、また、自由党と合わせても改憲に必要な議席の3分の2に達しませんでした。他方、革新側は

5) 『議会制度百年史』646頁。

3分の1を超え、憲法改正阻止の議席を勝ち取っています。

鳩山一郎は3月18日、自由党の支持を受けて、首班指名され、翌19日に第2次鳩山内閣が単独政権で発足しています。

(3) 県議選（4月23日）

4月3日に第3回県会議員選挙が告示され、23日が投票です。宇和島選挙区（2名）では、前県議の向井三治が宇和島市長選に意欲を示し、立候補せず、市議で新人の藤田定吉（市議、県政同志会）、靱木棟太郎（市議、保守系無所属）、梶原源一（市議）、中畑数一（元市議）らが立候補しています。亀太郎は、宇和島市長選で忙しく、この県議選には殆ど関係していません。4月23日の投票当日に、次のような記事が見られる程度です。「午前八時和霊小学校の投票所へ行って、県議会議員選挙の投票をした。……県議選開票の結果は、午後九時頃より夜半までに順次判明し、当市に於ては藤田定吉、靱木棟太郎の両君当選、梶原、中畑の両君落選となり、北宇和郡では清家盛義君等四名、南宇和郡では浅田仙吉君等二名の当選を見た」。

県下の結果は、定員53名中、県政同志会（自由党系）19、民主8、保守系無所属11、他方左派社会7、右社会1、革新系無所属7で、保守系の勝利でした⁶⁾。

県議選後の4月27日、白石春樹県政同志会幹事長の呼びかけで、県政同志会を解体し、自由・民主・無所属の保守3派による新しい統一会派「県政クラブ」が結成されています。会長井原岸高、副会長白石春樹、幹事長井部栄治、政調会長八木徹雄、総務会長西田唯次となっています。久松与党です。しかし、それも束の間、やがて、自由・民主両党系の主導権争いが表面化し、9月16日、八木徹雄ら13名の県議が県政クラブを割らないまま、民主党県議団を結成しています⁷⁾。

6) 『愛媛県議会史 第5巻』1128頁、今井『前掲書』120～123頁。

7) 『愛媛県議会史 第5巻』1130頁、今井『前掲書』122～130頁。

(4) 市長選挙・市会議員選挙（4月30日）

亀太郎は、1月早々から、甥の中村純一の宇和島市長選のために働いています。

1月2日、中村や支持者が来訪しています。「朝八時中村君来訪、同君市長立候補に関し、地方政界の動向を談じた上、新年の客として年酒を酌んだ。折柄武田君等年賀に来訪。南豫時事から高橋紅六君が写真班を連れてきて一同を撮影する。続て近森君、上田君（亮）、上田（弥）、石崎、浦瀬ノ諸君（来訪）」。

1月6日、中村が宇和島市長に立候補表明しています。「中村へ行く。中村君市長立候補確定し、新聞にも決意声明した」。

1月末位から支持者が中村選挙準備のために来訪し、協議しています。1月27日「夜宅に三木君、次で中村康男、福本の両君、次で浦瀬、鵜木の諸君来訪」、2月2日「春日屋君、武田武君、清家一雄君来訪」、2月3日「午后春日屋君、夕方より武田儀久、柴田、近森、石崎の諸君来訪。中村選挙関係のことを協議した」等々。

2月28日、県会議員の向井三治が宇和島市長に立候補する意欲を示していましたが、脊椎カリエスのため断念しています。日記に「二、三日来噂のあった向井三治君の市長選挙立候補中止説は健康勝れぬ為め、近親者とも協議の結果、断念に確定し、近く発表と聴いた」とあります。

3月14日、中村の対立候補として、中川千代治⁸⁾（宇和島信用組合理事長）が立候補する情報が入っています。「午前安達君方と近森君方へ行き、近森君、石崎両君と話した。市長候補に中村の外、新に中川千代治君が立つ由である」。なお、中川は1947年4月の第1回市長選挙にも立候補しており（落選）、2回目の挑戦です。

以降、選挙準備のため、関係者との協議が続きます。3月23日「三時から再

8) 中川は明治38年八幡浜向灘の魚本家に生まれ、昭和3年早稲田大学政経学部卒業し、宇和島政財界の実力者中川鹿太郎の養嗣子となり、予州銀行吉田支店長、明治製菓三津工場長、宇和島信用組合長等歴任。

び中村へ行って、市長選関係の協議会に出席、4月2日「夜、中村へ行って、選挙仮事務所の人々に会ふた」。4月12日「午前九時迄に石崎君と共に二番丁高木へ行って、今朝東京から松山に到着の中村純一君に会い、選挙関係の件を打合せする」等。

4月15日が宇和島市長選挙の告示日です。中村純一と中川千代治の一騎討ちです。4月17日以降、亀太郎は連日の如く応援演説等をしています。4月17日「午後中村選挙事務所へ行き、夕方少時街頭演説に市中の一部分を小トラックで廻った。八時帰宅」、4月18日「十時から中村候補と共に小トラックで市中の街頭演説に出て、正午事務所に帰った。午後一、二訪問の上帰宅。安達君、土居傳吉君来訪。七時半から浄念寺に於ける中村君の個人演説会に出席し、「政策ノ重点」の題下に応援演説をした。十時了り、事務所へ帰って、十一時帰宅」、4月19日「夜七時半から中村候補演説会に行き、泰平寺と佛海寺の二ヶ所で応援演説をして事務所へも寄り、十一時帰宅した」、4月20日「夜、金剛山と和霊小学校で中村候補応援演説をした」、4月22日「中村事務所へ行き、其用で靱木県議候補事務所へも行った」、4月24日「夜、堀端の公民館と伊吹町公民館で演説をした」、4月25日「中村事務所へ行き、其用で高光の玉井市議候補事務所へ往復、又二、三交渉に当たりなどする。夜、浄満寺で応援演説をして、十時帰宅した」、4月27日「午前中村の事務所へ行き、其件で選挙管理委員会其他へ行った。午後会社用、宅用をして、夜は又事務所からの街頭演説に出た。九時半帰宅」、4月28日「午後石崎君来訪。浦瀬君と柿原を廻り、中村にて協議し、夕方事務所へ行って、夜、街頭演説に出た。九時帰宅」等々。

4月30日、市長選挙と市議員選挙の投票日です。亀太郎は、6,000票余りで中村が勝つと予測しています。「宇和島市長、市議會議員選挙の日である。午前八時過和霊小学校へ其投票に行つて後、十時から中村選挙事務所へ顔を出して出入し、夜八時迄居つて、各投票区毎の情況報告を聴く。雨天に拘らず市議候補五十余名の運動員が各狩出しに努めたので、有権者の出足よく、周辺地区は九十七、八%に上り、市全体を通じて投票数三三、三七六、投票率九一・四%

の好成績であった。市長戦は中村，中川の対立で最初の内は中川の人気よかったが，選挙期日切迫と共に順次中村の勢力優越し，中村が六千票以上引放して勝った見込である」

5月1日，開票日です。中村が1万7,127票，中川が1万5,522票で，中村僅差で当選です。予想外の苦戦でした。「市長，市議選挙開票の日であるから，午前九時から中村の事務所へ行って，各開票場よりの報告を聴く。三浦区は中川が多く，高光区は中村が多数で三浦の劣りをカバーしたが，旧市内の開票は市役所（明倫校投票分を含む），和霊校（九島各区，住吉校投票所分を含む）共，中川予想外に進出して居り，前夜中村側の観測を裏切って，中村が僅少の差でリードする形勢であった。結局，市中心部の得票により，十一時頃には当選確実となり，事務所に歓声が揚った。午後二時中村純一，一七，一二七票，中村千代治一五，五二二票で，一，六〇五票の差を以て中村君の当選を見た。市議の方も夕方までに確定，三好，中畑，中山，杉田，水口等の諸君三十二名当選，松浦君などは落選した。夜八時帰宅」。

5月2日から4日にかけて，中村当選の挨拶に各地を回っています。

亀太郎は，その後，中村新市長を支えています。5月14日には，中村新市長の初市会を傍聴しています。この日に市会議長に三好金久，副議長に中畑義秋（土木業者，一若建設）が決まっています。「朝，中村へ行って，純一君の登庁までに会い，十時から石崎，近森の諸君と共に市役所へ行って初市会を傍聴する。議長問題は内部協調成って，三好議長，中畑副議長当選し，中村市長の挨拶等あった」。5月15日には，助役の人事問題を協議しています。「六時から中村陣営の重立った者，浜木，近森，上田，長山，河野，石崎，武田の諸君，吾宅に会し，純一君も来て共に助役問題を協議し，夕食を共にした」。その結果助役には井谷道生を再任しています。

（5）五五年体制関係

総選挙後，左右の社会党は，選挙中の公約である再統一を具体化し，10月13

日統一大会を開催し、委員長鈴木茂三郎（左派）、書記長浅沼稻次郎（右派）を選出しました。

他方、民主党（鳩山一郎総裁）と自由党（緒方竹虎総裁）の側でも、革新側の伸長に危機感を懐き、保守合同の機運がたかまり、11月15日自由民主党結成大会が開催されました。党首は未定で、代行委員を置き、鳩山一郎、緒方竹虎、三木武吉、大野伴睦が就任しています⁹⁾この自由民主党の結成に伴い、11月26日、第3次鳩山内閣が誕生しています。亀太郎日記にはこの保守統一・自由民主党結成について一切触れられていません。

なお、県下でも、左右社会党、自由・民主の保守統一が進められますが、統一がなされるのは翌1956年1月のことです。

(6) その他一裁判所の調停委員等一

亀太郎は裁判所の調停委員を続けています。調停内容は一切書かれてませんが、大体、1ヵ月に2～3回出席、調停に当たっています。1月18日「十時から裁判所の調停委員会に出席し、午後四時帰宅した」、1月22日「午前裁判所の調停委員会に出席し、正午迄に帰宅」、1月28日「十時裁判所の調停委員会に出席する」等々。

また、亀太郎はこの年の9月宇和島市の公平委員会委員にも就任しています。9月9日「市の公平委員会委員に選任の通知を受けた」。そして、10月25日会合があり、亀太郎が委員長に就任しています。「午前十時市役所へ行って、公平委員会（予と二宮、松本両君の三名）初の会合に出席し、予、委員長となる。十一時半了って帰宅」。

第2章 1956年

1956年(昭和31)、亀太郎73歳の年です。県内で1月初め自由党と民主党の

9) 升味『前掲書』206～208頁。

両保守党の統一による自由民主党支部結成があり、また、5月には宇和島でも自民党の部会が設立されています。亀太郎は高齢のためか、第一線を退き、宇和島部会の顧問の就任に止まっています。7月に参議院選挙がありましたが、これにはほとんど関与していません。

なお、世の経済は第1次高度経済成長の真っ只中、「神武景気」（1954年12月～57年6月）の時期にあたります。亀太郎の木工会社の場合には、遅れて少しおこぼれがあったようですが、短く、本年の年末には早くも不況になっています。以下、本年の亀太郎の政治関係について見てみます。

(1) 愛媛の「五五年体制」の成立

1956年（昭和31）1月、愛媛でも、左右社会党の合同、自由党と民主党の保守合同がなされています。まず、1月8日、左右両派の社会党（左派三橋八次郎会長、右派中村時雄会長）の統一大会が、松山市萱町の社会事業会館ホールで開かれ、県連会長に三橋八次郎、書記長に中村時雄を選出しています。

続いて2日後の1月10日、自由党（支部長越智茂）と民主党（支部長武知勇記）の合同統一による自民党愛媛県支部の結党大会が、松山市堀之内の県民館で開かれています。この大会に県選出の6代議員（砂田重政、越智茂、関谷勝利、菅太郎、山本友一、今松治郎）や前代議員（高橋英吉、武知勇記、村瀬宣親）、県会議員その他2,000名程が参集し、会長に長老で代議員の砂田重政、副会長に井原岸高（県議）、幹事長に白石春樹（同）、政調会長に八木徹雄（同）等を選出しています。なお、亀太郎はこの大会には出席しておらず、また一切記事もありません。

社会・自民に続き、共産党もまた、1月22、23日に松山市宮古町の大林寺で大会を開き、それまでの極左冒険主義を自己批判し、委員長に井上定次郎を選出しています¹⁰⁾

10) 今井琉璃男『前掲書』132頁、『愛媛県議会史第5巻』1130～1131頁。

5月8日、宇和島で自民党宇和島部会の結成式があり、亀太郎はこれには参加しています。そして、顧問に就任です。「午後一時から映画館の中央劇場に於ける自由民主党宇和島部会の結成式に参列し、予も来賓として祝辞を述べ、万歳三唱の発声をした。東京本部から来宇臨席の青年部長田村元、前防衛庁政務次官田中久雄両代議士、医博山本杉女史の講演があり、五時から天赦園に移って宴会が開かれ、之れにも出席して八時に帰った。予も部会の顧問に選任された」。

(2) 参議院選挙 (7月8日)

本年(1956)は、前年末成立した第3次鳩山自由民主党内閣が担っています。鳩山自民政党内閣は、次々と対決法案を出し、そして、憲法調査会法や国防会議設置法、新教育委員会法(公選制から任命制へ)等を強行採決で成立させています。また、改憲のために小選挙区制法案を提案し、衆議院では強行可決しましたが、参議院で審議未了となっています。

さて、本年は第4回参議院選挙の年です。6月12日が告示、7月8日が投票です。五五年体制下の最初の選挙で、鳩山自民党が参議院で改憲に必要な3分の2議席をとれるかどうか、他方、革新側が改憲阻止に必要な3分の1議席をとれるかが焦点でした。

愛媛では、自民党は前回立候補し、落選した堀本宜実を、社会党は現職の三橋八次郎を、共産党は新人の井上定次郎を立てています。自民党は、前回もまたその前も敗北し、連敗でしたので、必死で取り組んでいます。

6月17日、砂田重政(自民党愛媛支部の会長、代議士)が宇和島に応援に来ています。「山口浅治君来訪。夜、代議士砂田重政君来宇。明倫小学校にて演説会を開くので、八時過に行って、砂田君に会い、其演説を聴いた。自民党の政見と参議院議員選挙の話であった。十時終り、引続き天赦園ホテルに於ける其歓迎会にも出席して、久濶を叙し、十一時家に帰った」、6月18日「朝七時、砂田氏の出発を駅に見送った」。

亀太郎は、顧問で第一線を退いており、この参議院選挙にはほとんど関与しておらず、選挙事務所に行く程度です。7月5日「午前、伊予銀、自由民主党宇和島部会の参議院議員選挙事務所等へ行って、正午過帰宅々用をする」等。

7月8日が投票日です。この日の日記も「和霊校第四投票所へ行って参議院議員選挙の地方区、全国区各候補に対し、投票をした」程度です。

7月9日が開票日です。愛媛地方区の開票の結果、堀本 27万8,526票、三橋 24万5,901票、井上 1万9,039票で、自民の堀本が勝利し、前回の雪辱をはたしています。「本日、参議院議員半数改選開票の結果、本県地方区は、自民党の堀本宜実君当選し、三橋社会党候補が次点となった」。

全国的には、自民 61、社会 49、緑風会 5、共産 2、諸派・無所属 10で、社会党の躍進（社会の改選議席 37）が目立ちました¹¹⁾ 9日の日記にも「全国的には社会党が予想以上に進出した」と記されています。その結果、鳩山自民党は改憲に必要な3分の2に達しませんでした。革新側は改憲を阻止したわけです。

鳩山は憲法改正には挫折しましたが、もう一つの使命である日ソ国交回復に意欲を燃やし、10月19日にモスクワで日ソ国交回復を実現しています。

その後、鳩山は引退を表明し、12月14日自民党大会が開かれ、総裁選挙がありました。総裁候補に岸信介（幹事長）、石橋湛山（通産相）、石井光次郎（総務会長）の3人が出て、1回で決まらず、1位の岸と2位の石橋の決戦投票となり、石井票の多くが石橋に行き、石橋がわずか7票差で勝ち、新総裁に就任しています¹²⁾ 14日の日記にも「自民党新総裁は石橋湛山氏に決定した」と記されています。

12月20日、鳩山内閣が総辞職し、23日石橋湛山内閣が成立しました。同日の日記に「石橋内閣成立」と軽く触れられています。

11) 『議会制度百年史 院内会派編貴族院・参議院の部』336頁。

12) 升味準之助『日本政治史4』217～221頁。

(3) 愛媛の勤評の開始

1956年7月の参議院選挙に自民の堀本は勝利したものの、自民党県連初代幹事長の白石春樹は、目標より得票が少なく、且つ県教組が社会党の三橋のためによく動いたのを苦々しく思い、県教組を潰すために教員の勤務評定に走り出していきます¹³⁾以降、県下で歴史的な勤評闘争が始まります。

10月1日、知事任命の5名の新教育委員による愛媛県教育委員会が発足しました(菊池哲春、岡村威儀、岡田禎子、竹葉秀雄、村上徳太郎の5名、委員長は竹葉)。新教育委員会は、11月1日教職員に対して勤務評定により昇給昇格を実施することを決定しました。

それに対し、県教組側では激しく反発し、徹夜で交渉し、翌11月2日県教組は勤務評定反対の総決起集会を開き、ハンストに突入しています。さらに11月18日に県教組は県下の小中学校の校長会(校長も組合員)を松山工業高校にて招集し、約700名が参加し、そこでも勤務評定拒否を宣言しています。しかし、その後、県教委の圧力が強まり、校長の組合からの離脱が始まり、12月11日、松山市の校長46人中20人が組合脱退届けを市教組に出したのを皮切りに、以降組合脱退が続きます¹⁴⁾なお、亀太郎日記には勤評にかんする記事は出てきません。

13) 白石は「とにかく、学校の先生のように動くのにはかなわん。これでは日本は近い将来左傾してしまう。教員の勤務評定を足場に必ず県教組勢力を粉砕してみせる」と参議院選挙の最中に記者に語り、参議院選挙後の7月11日の議員総会で「堀本を勝たしたけど総得票は五％に過ぎぬ。県教組の家族ぐるみ選挙闘争に最も打撃を受けた。いまや県教組の潜在政治力は県下全保守の潜在勢力に匹敵する」とあじり、9月3日の自民党県連の会議では「新教委制度が10月1日からスタートするが、市長村教育委員には必ず県教組のヒモ付人事を排除せよ。小、中学校長は県教組からはずれるように指導せよ、理由は学校運営の責任者、管理者の校長が組合員とはおかしい。県教組は編向教育をしており、県は職員給与を勤務評定し、能率給算定で昇給させる方針だが、校長が組合員では良心的教師を心理的に圧迫する、教育経験の浅い教師ほど組合活動に専念する傾向があり、校長が非組合員とならなければ職場秩序が保たれぬ」などと攻撃し、勤評に走り出した(今井『前掲書』136～138頁)。

14) 『愛媛県史 年表』520頁、今井『前掲書』140～143頁、島津『愛媛県の百年』109～118頁。

(4) 公職関係—公平委員会等—

亀太郎は、前年の1955年から宇和島市の公平委員会の委員に就任し、委員長をしています。8月6日「午後一時から市役所に於ける公平委員会に出席した。予の外二宮卓、松本千吉の両委員にて市長、助役に会い、今回市職員組合より委員会へ提訴の昇給措置に就て意見を聴いた上、別室で委員だけが合議の上判定案を作って市理事者へ示した」。8月8日「午前九時、市役所へ行って公平委員会を開き、申入れにより市職員代表と会見したが、一昨日の判定を説明した結果、諒解を得て十時半閉会した。……公平委員会の判定書を起案作成」等々。なお、裁判所の調停委員も継続しています。

第3章 1957年

1957年（昭和32）、亀太郎74歳の年です。中央政権は石橋から岸に代わり、県下では勤評闘争が続いています。亀太郎は自民党宇和島部会の顧問を続けています。

(1) 中央政界関係

中央政権は、昨年（1956）の12月23日、鳩山の後に誕生した石橋自民党内閣が本年の初めに担当していましたが、石橋首相は激務が重なって1月24日肺炎となり、病床にふし、その後も病氣好転せず、ついに2月23日、石橋内閣は総辞職しています。僅か2ヵ月の短命内閣でした。そして、後継首相に岸信介が選ばれ、2月25日岸内閣が誕生しています。日記にも「一昨日石橋内閣辞職し、本日岸内閣成立した」と触れられています。岸信介は東条内閣の閣僚であり、戦後A級戦犯容疑で逮捕された人物で、その岸が首相になったのです。そして、岸内閣は憲法改正・再軍備と安保条約の対等平等化・攻守同盟化を掲げ、タカ派政権として登場です。

(2) 愛媛県勤評闘争関係

勤務評定を巡る闘争が続きます。しかし、県教委の圧力により、校長の組合離脱が続き、1月31日には宇和島市の校長全員が組合を脱退しています。そして、小中の校長達が教育委員会の圧力のもと、勤務評定書を提出します。1月28日に松山市と温泉郡の校長が、2月4日に周桑郡を除く他の市郡の校長、そして、最後に残った周桑郡の校長も5月29日に勤務評定書を提出し、第1次勤評闘争は幕を引きます¹⁵⁾

さらに、本年の秋から第2次勤評闘争が始まります。10月16日、県教育長大西忠が前年と同様教員の勤務評定を実施すると表明しました。それに対し、県教組側は猛反発し、10月27日に県下の小中学校教員1万2,000人のうち7,000人が参加し、支援の労組員を加え9,000人という大規模な総決起集会を開き、勤評撤回を求め反対運動を展開しています。そして、その後、勤務評定書提出阻止に向けて、それこそ激しい県教委と教組の間で闘争が続きます。

亀太郎の日記には勤務評定をめぐる記事はほとんどありませんが、11月27日の日記に「午後三時には市教育委員会主催の学校教員勤務評定に対する意見聴取会に天赦園に出席し、来宇中の衆議院議員坂田道雄氏、其他数氏に意見を述べた」とあります。

この第2次勤評闘争は、県教委側の処分の脅しがあり、12月12日、評定書提出を涙を吞んで教組側が受諾し、14日校長が評定書を提出し、幕を引いています¹⁶⁾

(3) 宇和島政界関係

亀太郎は、自民党宇和島支部の顧問をしています。代議士が帰郷した際の歓迎会によく出席し、また挨拶をしています。8月7日「夕七時から築地住吉に

15) 『愛媛県史 年表』521～522頁、今井『前掲書』144～147頁、島津『愛媛県の百年』316頁。

16) 『愛媛県史 年表』524～525頁、今井『前掲書』151～158頁、島津『愛媛県の百年』316～317頁。

於ける山本代議士帰宇の歓迎会に出席し、八時半帰った」、8月18日「午後〇時四十分、今回総理府総務長官に就任の今松治郎君帰省に就き、人々と共に駅で出迎へした。……六時から東高等学校講堂に於ける今松、増原（香川県選出参議院議員）、井谷、山本（代議士）の地方出身四政治家招待歓迎会に出席し、主催者側として中村市長、出席者代表として予より夫々祝辞を述べ、四氏の挨拶があった」等々。

8月20日の宇和島支部の定期大会があり、出席し、挨拶しています。「午後一時から和霊神社参籠所に於ける自由民主党宇和島支部の定期大会に出席し、今松、山本両代議士、中村市長、藤田、梶木両県議と予が夫々祝辞を述べ、宴会があって、四時過散会、帰宅した」。

12月、自民党宇和島市議会内部で紛争が起きています。現議長の佐古田（光議）派と前議長の三好（金久）派との対立のようです。この紛争に顧問の亀太郎が調整に当たっています。12月7日「会議所で市議杉内君と会談。……午後一時帰宅した。杉内君、中畑義秋、三好金久両市議と同道して来訪。市議会自民党内紛調整に就き意見を聴き、三君辞去後、四時市議中平庸行君を招きて話をした結果、夜、山水へ行って議会議長佐子田光義君及び中平君と会見した」、12月13日「午前九時中村市長、十時過三好、中畑両君来訪」、12月16日「十時宅へ中村市長来訪。十一時市役所へ行き、助役室にて佐子田議長と会見したが、先日の線より譲歩出来ぬとのこと」等々。

しかし、亀太郎の調停は不調に終わっています。12月22日「三好君より電話があり、市議会の調停は三好派不承諾のため不調に帰した」、23日「十時市役所へ行って市長と議長に会い、調停を一応打切った」、25日「九時から更に兵頭吉太郎君方で自民党市支部総務の諸君と会い、過日来の市議会紛争調停の経過を報告した」。

亀太郎の調停が不調になったあと、自民党の宇和島市支部の総務会が調停に入っています。12月26日「四時商工会議所で自民党市支部の総務兵頭、石崎、田中、梶原の諸君、長山、浜木、河野の三君等と会見。市議会調停の相談を受

け、次で三好金久、佐子田議長を別々に招いて意見の交換をした。跡から双方へ総務としての調停案を示した筈である」。しかし、紛争は年内には解決せず、越年しています。

(4) 公職関係

最後に亀太郎の公職関係について触れておきますと、裁判所の調停委員を続けています。1月25日「午前九時から裁判所の調停委員会に出席し、正午了る」、26日「午前九時調停委員会に出席」等。

また、55年に就任した市の公平委員に再任されています。10月2日「市公平委員再選の通知に接した」。

第4章 1958年

1958年(昭和33年)、亀太郎75歳の年です。宇和島政界の前年末から続いていた自民党宇和島市議内部の対立が、亀太郎の尽力で漸く解決しています。なお、経済面では、本年の世の経済は前半は不況です(なべ底不況、1957年7月～58年6月)。ただ、この不況は弱く、本年の後半から再び景気は回復・高揚します(「岩戸景気」、1958年7月から61年12月まで、42カ月)。しかし、宇和島地方は世の好景気と無縁です。亀太郎の木工会社も相変わらず苦境が続いています。

(1) 宇和島政界関係

本年も宇和島市議会の自民党内部での対立(現議長佐古田派と前議長三好派)が続き、1月初めから顧問の亀太郎が連日のごとく調停に尽力しています。1月2日「予は十一時商工会議所に於ける自民党市支部総務等の会合に顔を出して、昨冬来の市議会紛争調停のことで協議し(た)」、6日「二時から会議所へ行って、調停関係の自民党市支部役員や中畑市議に会い、又市役所で中村市長に会った後、五時市長室で佐子田議長と会見した」、7日「午前八時過、中畑市

議来訪。市議会調停に就き、同君独自の考案を聴いた」、8日「中平市議来訪」等々。

そして、1月10日に一応両派の幹部間では妥協が成立しています。「中平、中山両市議来訪。午後二時頃中畑市議と石崎君来訪。相談をして居る内に中平、中山両君再び来訪し、佐古田派を代表しての申出あり。折衝の結果、三好派としての中畑君も同意して、条件整い、茲に昨冬来持越の市議会の紛糾は一応解決を見た。直ちに両派共、内部各議員に伝達諒得をさす筈である」。

しかし、その後両派内部でなお調整が続きます。1月11日「三好派は市議一同、昨日の取極を承認との通知があった。佐子田派は今夜も尚協議中の様子」、12日「午前、佐子田派の市会議員中平、中山、狩野（副議長）、土居潔の四君来訪。意見申出があったが、一昨日の取極は動かし難き旨答へて置き、午後佐子田議長来訪、協定書記載事項につき話を受けた。辞去後、中畑君を招きて談じ、更に山水で佐子田君に会った。夕方、中村君を宅へ招いて昨日来の経過を告げた」、13日「午後一時、石崎君来訪。一面佐子田君より昨日交渉の点につき書面で回答があり、中村君と中畑、三好両君を招いて、三好派の態度を協議した。その後、中村君が佐子田君に会ふた上で、夕方更に来訪。結局、双方の合意を促し、明日予の調停として協定書作成のことになった」等々。

1月13日の夜、妥協が漸くなり、調整成立し、翌14日に協定書に調印となっています。「正午、別に市長室に於て昨夜調停成立した市議会両派の協定書調印を行ふた。議長派は佐子田光義君、反議長派は三好金久、中畑義秋両君。調停者側は予代表して、予て作成の協定書に夫々署名捺印し、昨冬来、市民の注目を集めた紛争は茲に落着を告げた。そのあと、予及び市長より記者団に発表して午後一時帰宅した。毛利兵一郎君来訪。五時、商工会議所へ行って、先日来調停に関係の市支部総務等数氏を集め、本日までの顛末を報告した」。

1月22日に、中村純一市長が主催して両派の議員等を集めて懇談会を開いています。いわば手打ち式です。「五時半から市長招待にかかる市議会議員及び先日の調停者側の懇談会に和霊神社参籠所へ出席し、予、長老として挨拶を述べ

た。明日、市会を開き円滑に運営、副議長には中平虎行君がなる筈である。宴会があつて、七時過帰つた」。

その後、年末に飛びますが、12月15日、宇和島市議会の佐子田議長が亀太郎に辞任の申し出をしています。調停書にもとづくものです。「佐子田光義君来訪。本月末に市議会議長を辞任し、後任には水口節義君を推したき旨、予ての調停者代表たる予へ対し、正式申出があつた」。そして翌16日亀太郎が記者会見で議長交代を発表しています。「宅で水口節義君の来訪に接しなどする。十一時半、市役所へ行って市長室で記者団と会見。予の談として議長交替の決定を正式発表した」。

12月21日自民党宇和島支部の総会があり、出席しています。「一時から公会堂に於ける自由民主党宇和島支部の総会に出席した。予、祝辞を述べ、役員改選に詮衝報告等をする。折詰の宴会があつて、三時過散会」。

(2) 衆議院議員選挙 (5月22日)

前回の総選挙(1955年2月)以来、鳩山・石橋・岸と内閣が3度も交代したものの、総選挙がありませんでした。そこで、社会党が強く解散を要求し、また自民党内でも解散は当然という雰囲気となりました。そして、3月に予算案、また関係法案が通ると、自民・社会の党首会談(岸と鈴木)がなされ、そこで「話し合い解散」が決まり、4月25日の衆議院本会議で、社会党が「岸内閣不信任決議」を出し、その直後に岸内閣は衆議院を解散しました¹⁷⁾

第28回衆議院選挙は5月1日が公示、22日が投票です。愛媛県の第1区(定員3)では自民党が3人(現職の関谷勝利、菅太郎、元職の武知勇記)、社会党が2人(現職の中村時雄、新人の石丸義篤)、共産党が1人(新人の井上定次郎)立て、第2区(定員3)では自民党が3人(元職の村瀬宣親、2月の補欠選挙で当選の井原岸高、新人の八木徹雄)、社会党が2人(現職の安平鹿一、2月の

17) 『日本議会史録5』22～25頁。

補欠選挙で当選の羽藤栄一)、共産党が1人(元岡稔)立てました。亀太郎の属する第3区(定員3)では、自民党が4人(現職の今松治郎, 山本友一, 元職の高橋英吉, 新人の毛利松平), 社会党が1人(現職の井谷正吉), 共産党が1人(岩井元祐)立てました。3区で定員3人であるのに、自民党から4人も出て乱立です(今松は北宇和郡, 山本は宇和島市, 高橋は西宇和郡, 毛利は西宇和郡が地盤)¹⁸⁾

この衆議院選挙には、亀太郎はほとんど応援活動をせず、せいぜい今松・山本の選挙事務所へ行くぐらいでした。5月3日「夜七時、船大工町の今松候補選挙事務所に河野藤貞君を訪問……」、5月4日「午前、木公会事務所に昨夜帰郷の今松候補を訪問、十時以降在宅。……夕方今松三郎君も来訪」、5月10日「十時、山本友一君の選挙事務所を訪ふた」、5月17日「午後、会社に出勤し、二時今松の選挙事務所を訪問……」等々。

5月22日が投票日です。「八時、衆議院議員選挙に和霊小学校の投票所へ行き、投票をした。……西田君、上田君等も来訪。又浦瀬君も来訪。選挙界の形勢観測をする。本日の選挙は夕刻投票を了って、即日開票の分は夜九時からラジオで各府県候補得点数の放送があり、愛媛県は第一区、第二区が十一時頃既に当選者判明し、第一区武智勇記(自)、関谷勝利(自)、中村時雄(社)、第二区村瀬宣親、井原岸高、八木徹雄(各自民)の当確を見た。当第三区は八幡浜方面の候補者優勢で高橋、毛利が終始高点を示し、夜半一時過には山本も当選、今松落選とラジオが報じたに拘らず、其以降遅れて居た東宇和郡方面の開票で野村で今松得点多かったため、最後に形勢逆転、今松の当選となった。稀に見る僅差である」。

愛媛県の選挙結果は、1区では落選中の武知(自民)が雪辱を果たし、トップ当選し、他は、関谷(自民)、中村(社会)が当選し、現職の菅(自民)が落選しました。2区では、村瀬(自民)、井原(自民)、八木(自民)と自民が独

18) 『愛媛県議会史 第5巻』1131～32頁。

占し、社会の現職安平と羽藤が共倒れで、惨敗です。3区では、高橋（自民）、毛利（自民）、今松（自民）とこれまた自民が独占で、現職の山本（自民）と井谷（社会）が落選でした。このように自民8，社会1で、自民の圧勝・社会の敗北となりました¹⁹⁾

翌5月23日に亀太郎は今松への当選祝い、山本への落選の慰めに行っています。「朝、新聞の報道による第三区当選者の得点数は、五三、八九六票高橋英吉（自民元）、五三、二九八票毛利松平（自民新）、四九、九一六票今松次郎（自民前）で、自民党のみ三氏当選し、次点山本友一（自民前）は四九、六一二票、又社会党の井谷正吉は三七、三三〇票であった。午前九時、今松の選挙事務所を訪ふたが、今松氏は今朝の准急で出発、上京し、参謀の太宰君に会ふた上、更に木公会へ行って今松夫人に会い祝意を表した。県内及び他府県の当選者数ヶ所へ祝電を打ち、中村と近森へ寄って正午帰った。午後会社用宅用をして、三時浦田君方へ行って、夕帰宅。七時から落選した山本君を慰める会に天赦園へ出席し、同君夫妻を始め、参謀連にも会ふて九時帰宅した」。

全国的には、自民党287，社会党166，共産党1，諸派・無所属13で、愛媛とは異なり、自民の微減（解散時290）、社会の微増（同158）でした²⁰⁾しかし、社会党の伸びは止まり、他方、岸自民党は微減だが、自信を深め、高姿勢に転じます²¹⁾

(3) 来年の参議院選挙・宇和島市長問題等

3月初旬、現職の宇和島市長中村純一が来年予定の参議院選挙に立候補の意欲を示しています。亀太郎は賛成ではないが、市議らと共に、上松し、自民党県支部に働きかけに行っています。結果は芳しくありません。3月8日「中村君来年の参議院議員選挙に立候補の意向ありて、情勢促進のため自民県支部方

19) 社会党の完敗は教員への勤務評定の実施の効果がてき面に現れたためであった（『愛媛県の百年』328頁）。

20) 『議会制度百年史 院内各派衆議院の部』670～671頁。

21) 『日本議会史録5』29頁。

面へ呼掛ける必要ありとのことで、予は積極的賛意を表し難きも、兎も角上松することとし、午後七時五十分の准急で出発した。市議会議員の三好、中畑、鹿野、中平、山村、西河の諸君と同行である。十時半着松。県会議事堂の議員控室で県議藤田、靱木両君に会い、一旦一番丁の村善旅館で昼食休憩の上、午後三時過再び行って自民党県議一同へ宇和島としての希望を述べた。中村君の期待ほどには形勢熟して居らず」。

そして、5月6日、亀太郎は中村純一に参議院立候補反対の意見を告げました。「朝、中村純一君来訪。明年の参議院選挙に同君立候補のことは成算なき故、予は反対の旨を告げた」。

5月22日の総選挙後も中村純一の参議院候補問題が続いています。6月28日「正午から石崎君、長山君、芝弥重君とたこ松に会して昼食を共にし、明年の参議院議員選挙の候補の噂さある中村、末光（千代太郎）等の諸君²²⁾に関する意見を交換した」、6月30日「午後一時から山本友一君来訪。明年の参議院選挙の話などした後、碁を打った」、7月4日「午後二時から柴田君と石崎君来訪。中村君の参議院立候補に就て意見を交へ後、共に碁を打った」、7月16日「午後一時から石崎、柴田、近森、上田（亮）の諸君来会。中村市長関係の意見を交換し、夕方まで碁を打った」等々。

その後、7月下旬、香川県の自民党から愛媛県の自民党に対し、香川では津島寿一（全国区選出の参議院議員）を地方区に回ることになったので、増原恵吉²³⁾（1957年7月の補欠選挙で参議院に当選）を郷里の愛媛から出してくれとの要望があり、9月1日の自民党県連の幹部会で増原を正式に来年の候補者に決定しています²⁴⁾。

22) 末光千代太郎は卯之町銀行頭取、予州銀行専務、伊予合同銀行常務等を歴任し、現在伊予銀行頭取（昭和23年～）の大物です。

23) 増原は1903年（明治36）北宇和郡宇和島町生まれ、宇和島中学、第一高等学校をへて1928年（昭和3）東京帝国大学を卒業し、内務省に入る。警察官僚をへて、戦後の1946年6月香川県知事に就任し、47年に公選知事にも当選。50年警察予備隊本部長官、52年保安庁次長、54年防衛庁次官をへて、57年香川県地方区から参議院の補欠選挙で当選していた。

24) 今井『前掲書』163頁。

結局、中村純一は参議院選挙立候補は断念せざるを得ませんでした。そこで、中村は今度は宇和島市長再選に向けて動きだしています。しかし、亀太郎は中村純一の推薦者になることを断っています。10月18日の日記「五時柴田君を訪い、共に佛海寺へ行って中村市長関係の側近者会合に出席した。浜木、近森、武田、石崎、上田、柴田の諸君の外、三好金久君と中村君が会し、三好君の挨拶あって、来年の市長改選に中村君再立候補に就き、後援方の相談を受けたが、前回と事情を異にする故、推薦者とはなり難き旨答へた。石崎君も同意見であった」。亀太郎が反対だとは中村純一にとって大きなショックだったと思われる。

12月10日、自民党の宇和島市・北宇和郡の地区大会が開催され、出席しています。「午前、佐々木長市君来訪。午後二時から公会堂に於ける自由民主党宇和島市、北宇和郡地区大会に出席した。堀本、増原、小西（英雄）の三参議院議員、毛利代議士、川口、森永等の県議の外、地方政党人多数出席。一般会衆は千式百人に及んで盛会であった。宣言決議、演説の後、予の万歳発声で五時閉会した。六時、山水に於ける宴会にも出席して、八時帰った」。

第5章 1959年

1959年（昭和34）、亀太郎76歳の年です。世は「岩戸景気」（1958年7月から61年12月まで、42カ月）の真っ最中です。しかし亀太郎の家業の木工会社は好景気とは無縁で相変わらず不振が続いています。

政治面では、本年は各種選挙の年です。1月知事選、4月県議選、5月市長選・市議選、6月参議院選挙と続きます。亀太郎は自民党宇和島支部の顧問として、選挙にかかわっています。特に宇和島市長選では当初甥の中村純一再選に反対でしたが、了解し、再選のために尽力しています。また、8月には自民党の宇和島支部の支部長に就任しています。

以下、本年の政治活動について見てみましょう。

(1) 知事選挙（1月28日）

第4回知事選挙は、1月2日告示されました。自民党は現職知事の久松定武を推し、他方社会党は県連会長・前参議院議員の三橋八次郎を推し、保革対決で戦われました。亀太郎は勿論久松応援です。1月16日には応援演説もしています。「五時久松候補選挙事務所へ行き、六時鶴島小学校の久松、三橋両候補立会演説会に行ったが、予は程なく転じて、七時までに和霊小学校に於ける久松個人演説会の応援に出た。予は推薦の辞として二十分余演説し、次で菅太郎前代議士、増原恵吉参議院議員の演説があった。久松氏等の出演前に八時半帰宅した」。

1月28日が投票日です。開票の結果、久松が41万3,040票、三橋が25万4,717票で、15万8,000票余の大差で久松が当選しました。3選です。「知事選挙の当日であるから、午前、和霊小学校の投票所へ行って選挙をした。……午前一時久松選挙事務所を訪ふた。革新の三橋候補に対し相当優勢の形勢である。……愛媛県知事選挙開票結果はラジオの速報で毎回久松が遙にリードして居たが、夜十一時には久松氏の当選確定して四十一万三千票。次点三橋約二十五万五千票と判明した」。

(2) 県議選（4月23日）

第4回県会議員選挙が4月に予定されています。宇和島選挙区からの立候補予定者が亀太郎に挨拶に来ています。2月3日には現職の藤田定吉が訪問です。「藤田定吉君、県議選立候補の挨拶に外山君と同伴で来訪」。2月9日には新人で立候補する市議の中畑義秋が訪問です。「三時中畑義秋君来訪。今回、三好金久君辞退に就き自ら県議選立候補を決意の旨、申出があり挨拶を受けた。尚、その関係の会合に五時からあかつき旅館に出席して八時帰った」。

県議選は4月8日に告示されました。定員は53名で、自民党側は1月の知事選の大勝を受け、定員と同じ53名を立候補させ、攻勢に出ています。宇和島選挙区（定員3）では自民から藤田定吉（現職）、中畑義秋（新人、市議）、佐子

田光義(市議, 前市会議長), 靱木棟太郎(元市議)の合計4名が出て乱立です。社会党は国村三郎を立てています。

亀太郎は特に選挙応援活動をしてはいないようです。

4月23日が投票日で, 即日開票です。宇和島選挙区では3人とも自民が独占でした。「県議会議員選挙の当日なので和霊小学校へ行って投票をした。……県議選開票は八時から始まり, 市部は十一時頃までに判明。中畑義秋(一〇, 三六四票), 藤田定吉(八, 八八三票), 佐子田光義(七, 一八一票)の三君当選し, 靱木君と社会党の国村君は落選した。北宇和郡は清家, 松尾, 宇都宮, 須田の四君当選。赤松君落選」。

県下全体の結果では, 自民39, 社会7, 中正クラブ3, 無所属4でした。無所属のうち3人が自民に入り, 結局42議席を独占しました²⁵⁾

(3) 宇和島市長選挙・市議会議員選挙(4月30日)

宇和島市長選挙が4月末に予定されています。現職の中村純一が2期目をめざし, 立候補です。亀太郎は先に述べましたように, 中村の立候補に反対でしたが, 4月初めに漸く立候補を認めています。4月8日「佛海寺へ行き, 住職浜木君の外, 石崎, 齒朶尾, 三好の諸君と会し, 浜木君を中心とした市長選挙問題に就き意見を交換した」, 4月16日「夜, 中村純一君方の会合に出席する。十人ばかりの席で相当意見を述べ, 同君市長再立候補を認めた」。

市長選挙の候補者は, 当初中村純一のみ立候補で独走と思われていましたが, 4月22日, 中川千代治²⁶⁾が支持者に推されて前回に続いて立候補しました。4月22日「県, 市議会の選挙で街頭演説など日々続いて居るが, 市長選挙は現中村市長独走の観があったところ, 本日中川千代治君立候補届出をしたため, 稍活気を帯びて来た」。

25) 『愛媛県議会史 第6巻』21頁。今井『前掲書』170頁。

26) 中川は, 四国食品株式会社社長等をへて現在タイガービーヤ取締役, 大搭山開発株式会社社長。

4月23日以降、中村と中川との激しい選挙戦となりました。「午前中、市長選挙有競争となったため、その関係で三、四の来訪者があり、中村君も明後日から街頭に立つこととなった」、24日「午前、土居通知君を訪い、又中村純一君方へ行った。選挙運動の配置やや整い、選挙事務所を本日から堀端通是沢控家へ設けることとなった。……夜、中村宅の幹部協議会に出て、十一時帰宅した」。

4月26日、亀太郎は中村再選の応援を始めました。「午前九時から選挙事務所へ行き、菅君と共に中村の代理として市会議員候補者の選挙事務所へ挨拶に廻った。午前中に旧市内を、午後借切発動船で九島と三浦を夕方タクシーで来村区を夫々歴訪し、事務所へ寄って八時帰宅した」。

また、4月27日中村を自民党の推薦としました。「選挙事務所へ寄って、夜、松月旅館での自民党市部総務会に顧問として出席し、中村君を党推薦とすることを再確認した」。

4月28日も選挙応援です。「午後、中村選挙事務所に居て四時一旦帰宅。梶原君(源一)、押方君来訪。七時半から公会堂に開催中の中村個人演説会に出席し、増田不二子、柴田君、予の順で応援演説をした上、中村候補の市政談があつて聴衆満員に近く盛会であった。九時二十分了り、事務所へ寄って十時帰宅した」。

選挙戦は中村不利、中川優勢になっています。4月29日の日記に「午後選挙事務所へ行く。夜、中川派の演説会が公会堂であり、昨夜の中村派に倍する聴衆で、人气的には中川優勢、両派の勝敗逆賭し難き形勢である」とあります。

4月30日、市長選挙・市議員の投票日です。5月1日が開票日です。開票の結果、中川2万2,561票、中村1万3,202票で、中村が敗北しました。しかも大差の敗北でした。1日の日記に「堀端の中村選挙事務所へ行く。昨日投票を了へた市長・市議の選挙は、本日午前八時から開票が行はれるので、幹部や運動員詰掛けて情報を待ったが、十時第一回発表に中村三、五〇〇、中川四、〇〇〇と出て、既に劣勢を示し、順次発表毎に敗色を著しきものあり。正午頃には約一万票近くの差で中村落選と判ぜられ、一同憂色漂ふた。中村より挨拶

があつて午後一時頃、事務所を退散した。……市長は二二、五六一票で中川千代治君当選。次点一三、二〇二票の中村純一君となった。中川君過去数回落選の同情と市民に反中村の空気濃厚の結果と見るの外はない」とあります。余程市民は中村への批判が強かったものと思われます²⁷⁾

なお、同日行われた宇和島市会議員選挙について、亀太郎は「午後開票中の市議会議員の得票発表を見た。……市議は中山、三好、中平、前田、水口等の古顔に齒朶尾、田中信明、藤井トモエ、池フサエ等の新顔を合せて三十六名……」（5月1日）と記しています。

(4) 参議院選挙（6月2日）

第5回参議院選挙は5月7日が告示です。社会党は現職の湯山勇がたち、他方自民は増原恵吉が出ました。増原は元香川県知事で、防衛次官をへて、57年6月の香川県地方区の補選で当選していましたが、今回は愛媛選挙区に鞍替えしての立候補です。

2月18日に候補者の増原が亀太郎を訪問しています。「午前、帰省中の参議院議員、増原恵吉君来訪」。

4月5日、亀太郎は増原後援会を発足させ、選挙に尽力しています。「六時から公会堂に於ける増原恵吉君の時局講演会に列席した。同君講演後、予、座長となって増原後援会の結成を決議し、幹事を指名した。九時了って帰宅」、5月9日「午後三時、丸之内有明旅館に参議院議員候補者増原恵吉君の選挙事務所開設に就き、その事務所始めの会合に出席した。後援会の連中百人以上来会。予、挨拶をして氣勢を揚げた」等。

27) 愛媛新聞は、「番狂わせ 中川大勝」の見出しの記事をのせ、大勝の要因として「中川氏は昭和二十二年の市長選挙に決選投票でわずか五票の差で敗れ、二十六年の県議選に落ち、三十年市長選には中村市長と争って敗れるなど連戦連敗の悲運を重ね、その同情が票となってついに前回の雪辱を遂げさせたとの見方もあるが、最大の勝因は土木行政の何か知ら不明瞭な印象を与えてきた中村市政に対する市民の冷厳な批判によるものとされている」と述べている（1959年5月2日付け）。

5月13日、吉田茂元首相らが宇和島に応援に来ています。「午前、増原選挙事務所へ行き、又市役所で佐子田君に会い、中川新市長へも挨拶した。午後一旦帰宅し、五時から又事務所へ、次で天赦園へ行き、六時宿毛から来着の元総理大臣吉田茂氏の一行（麻生和子夫人、出迎の久松知事、増原候補等）を迎へ、吉田氏の室で関谷代議士と共に少時話をした。首相当時殿下から干拓事業に就き御意見のあったこと、毎朝七時頃に起きる、朝のラヂオは聴かないなどの談話があった。七時過公会堂に於ける増原候補個人演説会に列席し、開会の辞に、次で七時半から予「保守陣営の結果」の題で二十分近く演説し、東京から来援の山菅元奉天市長、堀本参議院議員、増原候補、菅前代議士、関谷代議士が各三十分熱弁を振るった。吉田元首相は堀本君の次に八時四十分から約十分余、自衛隊創設以来の増原氏の功績を述べて応援し、喝采を博した。聴衆は吉田氏の風貌に接せんとする者も加はって超満員の盛況を呈し、場内二千人、場外マイクを通じて聴くもの千人以上、公会堂始まって以来の人出であった。十時二十分閉会。事務所へ寄って帰宅した」。

5月21日には岸首相も応援に来ています。「夜八時半駅へ行って、五十五分の准急瀬戸で来着の自民党総裁総理大臣岸信介氏と其一行を迎へ、駅前広場の群集に対し、豫め設けた壇上より、予、自民党市支部として岸氏を紹介し、岸総理より歓迎に答える挨拶があった。同行の武知、今松、高橋、坊等の諸代議士や秘書と共に直ちに公会堂に於ける七時半から開会中の自民党総蹶大会に案内し、場の内外に溢れる聴衆に対し約五十分間岸氏の政治演説があり、増原候補応援の熱弁を振られた直後、予の発声で岸総理の萬歳を三唱し、岸氏より宇和島市萬歳の発声があつて、一同之れに和した。十時十分閉会。宿舎天赦園に入り、予等も行って別室で増原候補と県支部の選挙総参謀堀本参議院議員に会つて、当地の佐子田、三好の諸君と共に選挙状勢を告げ、過日来演説会はいつも超満員の盛況なるも、下部滲透を欠ぎ、実勢は必ずしもこれに伴はざる旨を力説した。十一時半、選挙事務所へ帰り、次で帰宅した」。翌22日に岸を送っています。「朝六時九分の汽車で岸氏一行、八幡浜へ向い出発に就き、駅へ行つ

て挨拶し、当地自民党支部の連中と共に見送った。増原氏も共に出発し、松山方面、東予方面へ行った。当地へ帰るのは選挙日間近になる予定である」。

以降も増原候補の応援です。5月25日「十時半公会堂和室に於ける増原恵吉後援会の会合に出席。百人近くの来会者に対し話をした」、29日「選挙事務所へ行き、市役所で中川市長に会いなどした。増原対湯山の参議院選は期日切迫と共に、増原やゝ有利と見られる程度にまで到った」。

6月2日が投票日です。「十一時和霊校の第四投票所へ行って参議院議員選挙の投票をした。地方区（愛媛県定員一名）に増原恵吉君を全国区に豊田雅孝君を入れた。……一般出足は稍低調ながら、三年前の参議院選投票率には劣らぬ見込である」。

6月3日が開票です。自民の増原が当選しました。「朝、宅用をして九時半、選挙事務所へ行った。八時から開票の地方区得票数逐次入報。宇和島市は増原一七、六五二票。社会党の湯山勇九、九二五票で自民党面目を保ち、北宇和郡を通じて増原二五、四五一、湯山一五、一八三で、増原一万票勝ち、八幡浜市も五千票以上優勢で、新居浜市の湯山多数の外、全県各地概して良好。結局午後〇時半増原当選、湯山次点と判明して一同萬歳を唱えた。票数は増原二九九、八〇八、湯山二六九、三五〇で三万票の差を示した」。

全国的には、自民71、社会38、緑風会6、共産党1、諸派1、無所属10で、3年前と比較すると、自民は61から71に増大、社会は49から38への減少で²⁸⁾岸自民の勝利、社会の敗北でした。愛媛の社会党は3年前も今回も敗北し、議席が無くなりました。

7月19日、増原恵吉による議会報告演説会があり、亀太郎が挨拶しています。「六時から公会堂に於ける増原恵吉君の議会報告演説会に行った。同君昨夜、参議院議員堀本宜実君と共に着宇。先づ市議、県議を中心とした有志四十名と懇談し、後援会主催として夕食会を開いたので予、挨拶をした。次で七時半か

28) 『議会制度百年史 院内会派編貴族院参議院の部』354～358頁。

ら大ホールで演説会があり、聴衆約四百人で増原、堀本両君の熱心な報告を聞いた」。

(5) その後の宇和島政界関係等

亀太郎は自民党の宇和島支部の顧問でしたが、8月5日、支部長を要請され、1年間の約束で引き受けています。「午前十時、三好金久、竹田近市、中畑、石崎の諸君来訪。先日、自民党市部総会で支部長に予を推薦に就き就任を願った旨申出があり、事情を聴いた上、任期一年として承諾した」。

その後、支部長としての活動等をしています。8月17日「六時から天赦園に於ける自民党宇和島支部の地方財界人招待会に出席した。予、支部長として挨拶した上、宴に移り、八時過散会」、9月5日「一時過公会堂和室に於ける自民党宇和島支部の総務会に出席。支部長として挨拶を述べた。三好幹事長、竹田総務会長等で議事を進め、役員の決定、市政の研究討議の後、小宴会に移り五時了って帰宅した」、10月21日「五時、蔦屋へ行って帰省中の今松治郎君に会い、六時からその主催の宴会に出席した。市長、市会議員の連中であつた」、11月30日「五時から天赦園に於ける実業家連主催自民党宇和島支部役員招待の会に出席し、予、支部長としての挨拶を述べた」等々。

(6) 公職関係

亀太郎は公職として、市の公平委員会の委員長を続けています。1月14日「三時半、市の公平委員会に出席し、二宮卓、松本千吉両君と予が委員として、市長、助役等から職員労組要求事項の説明を聴取しただけで本日は五時過閉会、帰宅した」、1月24日「十時から会堂特別室に於て開会の市公正委員会に出席し、二宮、松本両委員と共に組織代表、津村菊市君より提訴理由を聴取し、意見を交換したあとで委員間合議の上、判定事項の内容を決定し、判定書、勧告書の起案は委員長たる予が行ふこととして正午散会した」、1月31日「一、二来訪者があり、午前中、市庶務課の弓削君を招いて公平委員会判定書の起案を

渡す」, 2月3日「市庶務課の弓削君来訪。公平委員会の判定書, 勧告書案を決定した」, 2月10日「午後, 市庶務課の弓削君を招いて, 先日の公平委員判定に対する組織からの質問書の回答起案を命じ, その梗概を渡した」等。また, 裁判所の調停委員も続けています。

(7) その他のこと

1959年(昭和34)は, 日米安全保障条約の改定をめぐって, 日本全国が騒然となりはじめるのですが, この安保についての記事は一切ありません。ただ, 皇太子の結婚式の記事があります。4月10日皇太子の結婚式の当日の記事。「皇太子殿下, 結婚の日と市の商工みなと祭で催物多く賑って居る。午前宅用をして, 午後妻と共に市中へ出て阿波踊, 仮装行列, 手踊の屋台等, 余興の数々を観た」。

第6章 1960年

1960年(昭和35), 亀太郎77歳の年です。世は「岩戸景気」(1958年7月から61年12月まで42カ月)の真っ最中です。しかし, 亀太郎の木工会社は好景気とは無縁で相変わらず不振が続いており, ついに, 8月廃業しています(その後, 少人数で洋家具会社として出発)。政治面では, 世は安保の真っ最中, 日本列島騒然です。しかし, その記事はありません。

(1) 宇和島政界関係

亀太郎は前年8月から自民党宇和島部会の支部長を引き受け, その関係の仕事等をしています。1月17日「予は三時, 松浦君母の葬儀に佛海寺に列し, 更に自民党宇和島支部の会合に公会堂へ行って, 役員, 市議, 県議二十名位で当面の市政諸問題を検討した」, 2月22日「七時から公会堂に於ける増原恵吉君の報告講演会に出席し, 予, 主催者側として挨拶を述べた。散会后, 和室に於て党支部連中だけの小宴会があり, 九時半帰った」, 3月14日「七時には公会

堂に於ける帰郷中の今松代議士の時局講演会にも少時顔を出した」等。

6月、また、宇和島市議会の議長人事を巡って紛争が再燃しています。6月23日「午前中、市議中平君、同齒朶尾君、県議中畑君、相次いで来訪。午後も中平、中畑両君別々に来訪。市議会議長改選の件である」、6月24日「午後、市議会議長中山君来訪」等。

7月5日に市会があり、中山寅市に代わり、中平虎行が第31代議長に選出されています。翌6日の日記に「中平虎行君、先日来の市議会内部交渉漸く妥結して、昨夕議長に当選。副議長前田君と共に挨拶に来訪した」とあります。

(2) 愛媛県政関係

愛媛県政の方に目を向けますと、1960年の6月14日、自民党の主流派白石春樹らに対し、非主流派の井部栄治ら10余名が、自民党同志会(会長井部、副会長門屋知照、県議14名)を結成し、又々分裂しました。宇和島市選出の県議では、中畑義秋、藤田定吉の2人が同志会入りです。もう一人の左子田光義は主流派に止まっているようです。日記には、この自民党分裂に関する記事はなく、亀太郎の態度は不明ですが、恐らく主流派支持であったと思われます。

自民党内部の主流派と反主流派の対立は激しく、年末の12月17日の県会では、白石ら自民党主流派が議長の森永富茂(同志会に近い)の不信任を出すと、森永が休会宣言を出し、休会中、自民の主流派が副議長を責めたてて、同志会や社会党議員らがいなまま、本会議を強行し、新議長に桐野忠兵衛を26票で選出し、ここに、議長が2人存在するという、珍無類の醜態となっています²⁹⁾

(3) 中央政界関係、衆議院議員選挙(11月20日)

中央政界では、安保闘争の年です。1月16日に岸首相ら新安保条約調印全権団が訪米し、19日新安保条約が調印されます。以後、新安保を巡って国会内外

29) 今井『前掲書』179～187頁。

で激しい論戦・闘争がなされます。安保反対運動にも関わらず、5月19日安保特別委員会で、翌20日衆議院本会議で強行採決がなされ(以後、国会空白、連日国会周辺デモ)、6月19日午前〇時新安保条約は自然承認となっています。6月23日新安保条約の批准書が交換され、岸が退陣表明をしています。騒然とした年ですが、日記には安保騒動の記事は一切ありません。

7月14日、岸の後継総裁選びの自民党大会が開かれ、池田勇人(通産相)、石井光次郎(総務会長)、藤山愛一郎(外相)の3人が出て、最初の選挙ではだれも過半数に達せず、池田、石井の決戦投票となり、池田が当選しています。日記に「東京の自民党大会で総裁公選の結果、石井、池田の両君の決選となり、石井氏一九四票に対する三〇二票の多数を以て池田勇人氏が午後一時過当選、新総裁となった。二時過岸前総裁暴漢に脚部を刺されたが別条なき旨、夫れぞれ臨時ニュースで聴いた」と記されています。

7月19日、池田内閣が発足します。「昨日、議会で池田首班指名、今朝早くも池田内閣成立のニュースがあった」。

さて、総選挙が間近いということで、次の総選挙候補者問題がおきています。亀太郎の属する3区では、2年前に僅差で落選した山本友一が次の総選挙に出るかどうかが焦点でした(3区は前回定員3名であるのに、自民から4名出て、山本が今松に僅差で負け落選中)。中央の自民党幹事長益谷秀次、佐藤栄作らが候補者調整を行い、山本は立候補断念させられています³⁰⁾ 8月12日「今回、山本友一君、次の総選挙の立候補断念声明に就き、今松派陣容強化の話である」、8月19日「山本友一君方へ寄った。昨夜帰宇の由で大勢を会して、立候補断念の事情を報告、協議中であつた」。

山本友一出場断念の後、これまた前年の市長選で落選中の中村純一が意欲を示しました。亀太郎が山本に打診しましたが、拒否されています。8月20日「朝八時過、山本友一君を訪うて、中村純一君のことで意見を聴いた。中村立候補

30) 今井『前掲書』181頁。

するも援助の意向なしとのことで、帰後中村へこの由を報じた」。

8月24日、亀太郎は自民党の宇和島支部の総務会を開き、山本辞退を了承しています。「午前、昨夜帰郷の今松代議士来訪。……午後一時、会議所で自民党市支部総務会を開き出席。予、支部長として山本君辞退のことを報告し、同君の挨拶があって一同諒承、散会した。二時半帰宅。七時から更に公会堂に於ける今松君歓迎会に出席し、予と中川市長が来賓祝辞を述べた」。

そして、亀太郎は立候補する今松治郎側の希望により、山本派との間を取り持っています。8月25日「長山芳介君来訪。今松側の希望に基く同君の申出により、共に斡旋することとして、二人で山本友一君を訪問した。存外スムーズに話進み、山本君も今回は大局的見地から今松派を援助の立場を明らかにしたので、近日具体的に両陣営の幹部会見の打合をもした」、8月26日「朝九時、長山君と共に木工会に今松君を訪うて、昨日山本君と会見の顛末を話し、二十八日双方会合の運びとした」、8月28日「予は六時天赦園へ行って今松、山本両派会見懇談の会に出席した。今松側は今松君の外、松尾、宇都宮、佐子田三県議、河野藤貞君等、山本側は同君の外、清家、藤田、浅田三県議、三好金久君等、各七、八名で予と長山君が趣意を述べて一同賛同。自民党として一致協力することに列席者異議なく決定した。宴に移って予は八時過帰宅した」、8月31日「今松三郎君と中野君挨拶に来訪」等。

10月24日、衆議院解散です。そして、自民党宇和島支部は今松支援を正式に決めています。10月27日「午後三時から会議所に於ける自民党宇和島支部の役員会に出席し、今回の選挙には主として今松候補者を応援することに決定した」、28日「今松夫人、山本秘書と共に昨日帰郷の由で挨拶に来訪。……予は河野藤貞君を訪うて、同君及び佐古田、中平君と共に会見し、昨日会合の情勢を報告した」。

第29回衆議院選挙は10月30日公示、11月20日が投票です。愛媛県の1区（定員3）では、自民党は2人（現職の関谷勝利、元職の菅太郎）立て（現職の武知勇記は引退）、他方社会党が1人（新人の湯山勇）、民社党が1人（現職

の中村時雄)、共産党が1人(新人の井上定次郎)立てました。2区(定員3)自民党が3人(現職の八木徹雄, 井原岸高, 村瀬宣親), 社会党が1人(元職の安平鹿太郎), 民社党が1人(元職の羽藤栄一), 共産党が1人(新人の元岡稔)を立てました。亀太郎の属する3区(定員3)では, 自民党が3人(現職の毛利松平, 高橋英吉, 今松治郎), 社会党が1人(元職の井谷正吉), 共産党が1人(新人の島田学)を立てました³¹⁾

以降, 亀太郎は今松の応援をよくしています。11月4日「河野藤貞君の選挙関係数名, 井上敬雄君, 夫々に来訪。……今松選挙事務所へも寄って, 午後一時帰った」, 7日「今松事務所へ行った」, 10日「夜, 堀端公民館に於ける今松派演説会に出席し, 東京より応援に来宇の佐野自民党幹事長の到着まで, 予, 演説を続けて十時閉会, 帰宅した」, 12日「六時から今松個人演説会の応援に石応へ行くこととなり, 前田市議, 佐子田県議等数人と共に発動船で赴いた。学校で演説, 予の次に今松候補も遅れて到着。十時半, 演説会を了った。再び乗船して一旦事務所に還り, 十一時過帰宅した」, 13日「夜七時から泰平寺で開かれる今松派演説会に出席して候補者に代り真打を演説し, 十時閉会, 帰宅した」, 14日「夜, 伊吹町公民館で選挙演説があるので, 予は九時に行って今松後援の趣旨を述べた」, 15日「今松選挙事務所へ行って, 午後帰宅。夜六時半から今松夫人と同乗, 吉田町へ行って小学校で開催の今松個人演説会に出席し, 松尾, 清家両県議に次で, 予, 演説をした。東京から到着の元内務大臣湯澤三千男氏の応援演説, 今松夫人の挨拶があつて, 十時閉会。湯沢氏等と共に自動車で宇和島に帰った」, 11月16日「今松事務所へ顔を出した」, 18日「今松事務所へ行き, 又栄町にある毛利松平候補の宇和島事務所を支部長として訪うた。中畑, 齒朶尾の両君はこの方である。……夜, 日劇で開催の今松個人演説会に出席して演説し, 十時過帰った」等々。

11月20日が投票日です。「衆議院議員総選挙の日なので, 十一時和霊小学校

31) 『愛媛県議会史 第6巻』25頁。

の投票所へ行って投票した。午後事務所へ行って、夕方一旦帰宅。渡部君と山本君来訪。十時から再び今松事務所へ行った。八時から開票結果の報告間断なく入り、今松第二位当選の形勢順次明瞭となったので、十二時頃に帰宅し、ラジオで各地の開票数を聴いた。当区は高橋（自民）、井谷（社会）の得票大差なく、最終まで気を揉ませたが、結局六四、八四〇票毛利松平、五六、六一〇票今松治郎、四九、〇六〇票高橋英吉の三君当選確定し、四八、九九一票の井谷正吉君僅差で次点となった。全国的にも保守の自民党依然優勢、社会党も伸び、民社党激減した」。

愛媛県の選挙結果は、1区では菅（自民）、関谷（自民）、湯山（社会）が当選し、現職の中村（民社）が落選しました。2区では安平（社会）、八木（自民）、井原（自民）が当選し、現職の村瀬（自民）が落選しました。3区では、毛利（自民）、今松（自民）、高橋（自民）と自民が3議席独占し、自民7、社会2で自民の勝利でした。全国的にも自民296、社会145、民社17、共産3、諸派・無所属6で、自民が解散議席(286)を上回り、無所属を入れ300名となり、安定多数を確保したのでした³²⁾

以上、1960年、亀太郎にとって多忙な一年でした。

32) 『議会制度百年史』692頁。